

ガーリック + 通信



第 44 号 2014. 6. 17 発行

IMRP2013(上海) & JAPI(京都)で発表



2013年11月5日～7日に中国上海市で開催されたIMRP2013（放射線プロセス国際会合）で市川まりこ代表が「日本の消費者団体の食品照射に対する視点（Views of a Japanese Consumers' Association on food irradiation）」と題して発表を行いました。また、2014年1月24日に京都で開催されたJAPI(放射線照射利用促進協議会)でIMRP2013の発表報告をWould consumers accept foods treated with radiation if they understand the benefit? 「消費者にちゃんと教えてくれたら、ちゃんとわかるのに！」の講演を行いました。

海外で初めて英語で講演するにあたっての様々なご苦労や奮闘ぶり、上海での活躍をインタビュー形式でご報告いたします。

今回の発表に際して惜しみないご協力を下さった会員の皆さま、農研機構・食品総合研究所の等々力節子博士、北海道教育大学の鶴飼光子博士、原子力機構の菊地正博博士および小林泰彦博士と共同で行ったものです。また、英語のスライドや原稿作成に当たっては、飯島みどり氏にお世話になりました。皆様に心から感謝いたします。

Q：そもそも、IMRP（イムラップ）って何ですか？

A：International Meeting on Radiation Processing、略して IMRP。

放射線を商業利用している関係者の世界会合という意味だと思います。

（以下、小林加筆）およそ2年に1回開催されている国際会議で、食品照射と並んで、医療器具などの照射滅菌、新たな加速器や線源の開発などが主なトピックです。昨年の上海 IMRP2013 には 500 人以上が参加したそうです。上海以前の開催地は、カナダ・モントリオール（2011 年）、英国・ロンドン（2008 年）、マレーシア・クアラルンプール（2006 年）、米国・シカゴ（2003 年）、フランス・アビニョン（2001 年）、豪州・メルボルン（1999 年）だそうです。（残念ながら小林は参加したことはありません）

Q：IMRP について、以前からご存知でしたか？

A：小林さんや等々力さんが話題にされるまで全く知りませんでした。

Q：どんな人や団体が集まっているのですか？

A：詳しくは知りませんが、IAEA などの国際組織もかかわっているものです。

（以下、小林加筆）等々力先生や古田先生、鶴飼先生も参加されていますが、どちらかというと研究者が集まる学会というより照射会社や加速器メーカーなどの事業者が主体の会合のようです。植物検疫に照射技術を積極的に取り入れている米国農務省などの行政機関も参加して海外の事業者と交流しています。

Q：どうしてそこに参加することになったのですか？

A：どうして参加することになったのかな？自問自答状態です。 日本の国内で何回も体験実験やそれに関する発表をしてきていますが、関係者の自己満足の世界のように思うこともあります。最初は、海外で円卓会議の食品照射の活動を紹介して何の意味があるのだろうかと考えていました。それほど乗り気になれない上に、学会参加費だけでも、1日4万円を知って驚き、参加する価値がどこにあるのか悩み、迷いました。

そういう時に、等々力さんから「参加費免除の交渉をしてみるから」という一言をいただき、小林さんから「できることはサポートするから、チャレンジしよう！」という背中の一押しをいただきました。2006年に円卓会議を立ち上げてからの食品照射関連の出来事や、学んだことなどをレビューしているうちに、迷うなら前向きな方向を選ぼう、参加してみようかではなく、参加すべきだと思えるようになってきました。参加の覚悟を決めてからは、発表に至る様々な準備を行いました。もちろん、周りの方々からたくさんサポートをいただきながら。

Q：国内の学会などにくらべて、参加費や宿泊費がとても高いと聞きましたが？

A：驚きました！学会参加費だけでも、1日4万円を知ってびっくり仰天しました。

宿泊については、上海は初めてのところなので安心して泊まれるように、会場になっているマリオットホテルを選びました。かなり値段が高いので、私と等々力さん亀谷さんと1室をシェアすることにしました。スイートに近い部屋で高いのですが、3人で割り勘しました。高層ホテルのかなり上の階で、眺めはなかなかのものでした。ただ、2泊目はスモッグがひどくて、夜景はもやもやの朧月のようになっていました。

朝食は、中華、洋食、和食、西アジア食（トルコ料理、インド料理？）大変多種多彩なものがずら

りと並んでいて楽しめました。

Q：消費者団体からの参加は珍しかったのですか？

A：私のセッションの座長のチェンハオ氏から、消費者団体の参加はとても珍しいと言われました。私以外に消費者団体からの参加は無かったのではないかと思います。「食品照射について、国は動こうとしないから、なんとかしたいのです」しびれを切らした日本の消費者団体が海外の人々にそのことを訴えるなんて、ちょっと笑い話だと思いませんか？

Q：参加して、誰に何を伝えようと思いましたか？

A：日本では、消費者ニーズがないから国も事業者も動かないのだと海外に受け止められているのかもしれませんが、日本の消費者として、そのことを見過ごすわけにはいかなかったです。

世界各国関係者に、日本にも、学びと体験をベースに食品照射について前向きな活動をしている消費者団体がいることを知ってもらい、日本の食品照射が40年も停滞している本当の理由を伝えたいと思いました。

Q：本当の理由とは？

A：政治家は、選挙の票に結びつかないことは取り上げない
官僚は、面倒なことにはかかわりたくない
事業者は、反対派を恐れて亀のように手も足も頭も引っ込めている

Q：要旨やスライドを作成する時、どんなことに注意されましたか？

A：まず、日本語の要旨やスライドを準備しました。

一番手間取ったのは英語のスライドを示しながら解説する英文原稿作りでした。最初はWebの無料翻訳サイトを利用しました。しかし、何度やり直しても機械翻訳は、しっくり来なかったです。何回も試行錯誤を繰り返して、日本語の直訳ではメッセージは伝わらないということにやっと気が付きました。そこで、英語に堪能なメンバーの飯島みどりさんに全文チェックをお願いしました。快く引き受けて下さり、私にも分かり易い英文になりました。英語原稿の音読については、娘にお世話になりました。このようなサポートが無ければ、私のIMRPプレゼンテーションは実現不可能だったと思います。



Q：英語で講演することに不安はありませんでしたか？

A：準備をすれば大丈夫と思っていたので講演そのものに不安はありませんでした。ただ、英文原稿を丸暗記できなかったので、当日は原稿を読む形にしました。最初の挨拶とスライド1枚目、最後のまとめと挨拶だけは暗記して臨みました。

一番の問題は、講演後の質疑応答でした。どの

ような質問が来るか想定して答えを用意すればよいのですが、一人ではとてもそこまで手が回りませんでした。当日は、等々力さんが直ぐ近くに来て下さり、質問の和訳、答えの英訳を助けてもらいました。

Q：そもそも、参加申込みも英語のサイトからですよね？ 大丈夫でしたか？

A：英語の申し込みは初めてだったので、難渋しました。単純な英文なのに意味が分からないという場面も多々ありました。改めて、単語には複数の意味があるということ実感したりしました。



Q：当然、講演要旨も英文ですよね？

A：日本語直訳ではだめだということに身に染みて実感しました！

Q：実際に英語でスピーチしてみて、どうでした？！

A：伝えたい気持ちがあれば日本語でなくても熱意をもって話せるということを実感しました。つまり、その人そのものがメッセージみたいなパワーを持つことですね。

Q：聴衆はどんな人たちでしたか？

A：私が発表したセッションは、研究機関所属している人や放射線を商業利用している事業者がほとんどだったようです。

Q：座長や聴衆はどんな様子で聞いていたようですか？

A：座長は大変好意的に私の講演内容を受け止めてくれて、消費者自ら、しかも日本の消費者団体がこのようなプレゼンをしてくれることが大変素晴らしいし、大変意義のある内容だったというようなコメントだった気がします。座長は若い頃、高崎の原研に留学していた方でした。「あの当時、日本の食品照射研究は最先端でしたよ」と、達者な日本語で懐かしそうに話されました。

ほぼ満席の聴衆の皆さんは、私の方を見て言葉を聞きもらさないように熱心に聞いて下さったと思います。プレゼン冥利に尽きるような気持でした。

Q：どんな質問があっ、それぞれ何と答えたのですか？

A：発表の後、「日本の政府は、このような活動に対してどのような意見を持っているのか」という質問がありました。「良い質問をありがとうございます。私たちも聞きたいと思っています。その一環として、7月に公開しゃべり場を開催して、行政マンと意見交換を行ったところですよ。」という回答をしました。

Q：ケープタウンの照射会社のバルト女史から声を掛けられたそうですね？

A：どんな女性だったか。。

声を掛けて下さった方々は、「とても役に立つ内容だ！」「自分の国でも生かせるかも」というようなことをおっしゃっていました。

Q：日本からの参加者からはどんな感想やコメントがありましたか？

A：「ほとんど何もしてこなかった行政への辛口コメントは、胸がすく思いだった」という言葉をいただき、印象的でした。

Q：ガーリック通信（日本語版）を持ち込んで配布されたそうですが？

A：座長を務めたチェンハオ氏、名前は忘れましたが、食品照射の重鎮の方々に等々力さんの通訳を介して手渡ししました。

Q：最終日の総括で、市川さんの講演が大きく取り上げられたそうですね？

A：思いがけず、大きく取り上げていただき驚きました。同時に大変うれしく思いました。上海に講演に来て良かった、来た甲斐があったと思えました。

セッション1：すべて円卓の紹介で総括！！

Food Irradiation is safe! Why is it so hard to believe?

(食品照射は安全！何故それが信じられないのか？)

○Japanese Consumer's Association, Roundtable:

- amateurs got together and 'experienced' first-hand the benefits of irradiation
(アマチュアが集まって照射の利点を直接“体験”)
- They're questioning local regulators / bureaucracy as to why Food Irradiation is not being approved except for potatoes
(なぜ馬鈴薯以外に照射が許可されていないのか、彼らは規制当局／お役所主義に問いかけている)

Q：なぜ、円卓からの発表が大きな関心を集めたと思いますか？

A：いくつかの理由があると思います。

- 食品照射について鎖国のような日本であるにもかかわらず、日本の消費者団体のポジティブな発表だったこと
- 消費者自らが、食品照射について学びや体験をしてみたいと思いついたという事実
- 学びと体験の中から得た納得感を、まだ知らない人々にも伝えたいと思うようになり、ホームページや公開のイベントなどを開催して発信していること
- 消費者に自主的な学びと体験の機会があれば、食品照射についてのネガティブな先入観を克服できるのではないだろうか、専門家と企業の努力しだいで、消費者の理解は着実に深まると確信している、というメッセージのインパクトもあったかと思えます。

Q: 今回の市川さんの講演内容や参加した感想などをどこかで発表されましたか？あるいは、これからの予定は？

A: 2014年1月24日に開催された JAPI 平成 25 年度大会において、IMRP 参加報告として下記の講演を行いました。

Would consumers accept foods treated with radiation if they understand the benefit?

「消費者にちゃんと教えてくれたら、ちゃんとわかるのに！」

Q: 食品総合研究所の等々力さんが主催者側と参加費の免除などの交渉して下さったようですが？

A: 大変お世話になりました。参加費の免除がなければ、参加は無理と考えていたので、等々力さんの交渉は、私の IMRP 参加実現の一番大きな原動力となりました (笑)

Q: これまで上海や中国に行ったことは？

A: これまで行ったことはありません。

Q: 日本から一緒に参加した人は誰かいましたか？

A: 食品総合研究所の等々力さんと、等々力さんの部下である亀谷さんが一緒でした。

Q: 今回、一人で上海に到着して、よく迷子にならずに会場まで辿り着きましたね…

A: 私の方向音痴、は自他ともに認めるものです。定例会の会場は、同じところを何回も使用しているのに、いつも迷いそうになって (迷って) います。どうして迷ってしまうのか分かりません。迷わずにサクサク歩ける人が、うらやましいです！

今回は、何としても浦東空港からマリオットホテルまで辿り着かなければなりません。いろいろ思案して、タクシーを予約して、到着ロビーで名前を掲げて待ってもらうことにしました。勿論、その分割高です (1.5 倍) が、事前に車のナンバーや運転手の名前、携帯番号も知らせてくれて、安心でした。ところが、予定通りにいかないのが世の中の常でした。

浦東空港について、入国手続きを終えて、どんな運転手さんが待っていてくれるのだろうと思いながら到着ロビーにつきましたが、それらしい人がいません。私の名前を書いた紙をだれか持っていないか行ったり来たりしましたがいないのです。「えっ！ どうしよう～」って気持ちになりました。とにかく運転手を探さなければならないので、インフォメーションに行き、片言英語で連絡を取ってもらうことができました。

Q: ご家族は心配されていませんでしたか？

A: 娘がとても心配しました。「商談に行くわけじゃないから、騙されることもないだろうし」と言うので「甘い！」と・・・というわけで、心優しい婿殿が「中国人とは」という冊子を読むように手渡してくれました。その中で一番印象的だったのは、声が大きいのは普通であり、怒鳴っているわけではないと。

Q: 上海で何か美味しいもの食べましたか？

A: 美味しく感動したものはなかった気がします。特にまずいという記憶もないでした。。

Q：上海の大気汚染が心配じゃありませんでしたか？



A：それほど深刻に思っていなかったのですが、実際に行ってみると結構汚染があるという印象でした。到着した翌日は、朝からもや～っとしていました。その次の日はもっと霞んでいました。私が帰国するために乗り込んだ便は、視界不良のため滑走路上で40分待ちぼうけでした。

Q. 中国料理に油の使用が多いのは、日本の様に良い水が得にくいからということですが、今回の場合、水道の蛇口から出る水は飲みませんでしたか？

A：うがいはしましたが、直接飲みませんでした。

Q：. 今回、接した中国人は、日本人に対して、敵対心とか嫌悪感のようなマイナスな感情を持っていると感じましたか？

A：特に感じませんでした。

Q：あれからもう半年近くたちましたが、今振り返って思うことは何ですか？

A：思い切って出かけて良かったということです。迷う時は、前向きな方を選ぶべきということですね。

Q：また IMRP に参加してみたいですか？

A：もちろん参加してみたいです。次回は、日本で食品照射の許可が拡大されましたという吉報報告をしてみたいです。

Q：次はウィーンの IAEA 本部で招待講演ですね！

A：何もしないことが減点にならない一番確実な方法であるがゆえに、官僚の事なかれ主義は、日本のどうしようもない難治性習慣病かもしれません。官僚の重い腰を上げるには、外圧しかないかもしれません。



《おまけの話》

帰路は、等々力節子さんと彼女の部下の亀谷さんと女性3人でホテルから普通のタクシーに乗りました。急いでなんて一言も言っていないのに高速道路とはいえ、クラクションを鳴らしながら、140~160キロの猛スピードで走ってくれて、かなりこわかったです。。空港に着いた時は、3人でホッとして顔を見合わせました。